

ミャンマーの子どもたちへ文具を贈る事業

●協働先 NGO/NPO

今泉記念ビルマ奨学会

実施地域

ミャンマー

事業実施期間

2007年度～継続中

協力形態

事業協力



文具を受け取る子どもたち

実施内容

市民に文具の寄附を呼びかけ、市内の公民館等の回収箱に入れてもらい、1月に回収した文具を仕分けして、3月までに発送する。今泉記念ビルマ奨学会の現地学友会がそれを受け取り、ミャンマーの小学校や中学校などへ配布している。

事業目的／背景

国際交流協会の主催で、市民の海外研修旅行として、ミャンマーへ訪問していたが、ミャンマーの政情不安などで、市民の現地への訪問が難しくなった。次の事業を模索している中で、山間部の学校では文具が不足しているとの情報から市民から寄附された文具の寄贈を行うことになった。

協働のきっかけ

1999年のミャンマー・タイ研修旅行や国際交流まつり、ワンナイトステイなどの事業を通じて今泉記念ビルマ奨学会と交流を深めていたこともあり、2001年に協会設立5周年と市政施行10周年の記念事業として同会と友好交流協定を提携したことがきっかけ。

役割分担

自治体側：

- ・市の広報に掲載、公民館等にポスター掲示及び回収箱の設置を呼びかける（市に協力依頼）
- ・回収した文具の仕分け、発送送料の負担

NGO/NPO側：

- ・現地の小中学校へ届ける



文具の仕分け作業の様子

協働によるメリット等

メリット：

市民が国際協力に参加できる。

協働する上で配慮した点

個人の協力を得られるように少量でも使いかけでもOKと広報している。

事業実施までの問題とその対応

送料が思ったよりかかる。

送料のカンパの呼びかけと彩の国さいたま国際協力基金助成金の申請をした。

事業評価／今後の展望

継続して行うことで文具の寄附が市民に定着してきている。

今泉記念ビルマ奨学会

今泉記念ビルマ奨学会は、市内在住の今泉清詞氏が呼びかけて作られた任意団体。1989年からミャンマーの留学生に奨学金を支給、2009年に組織を見直し、現在はミャンマー国内で青少年への奨学活動を行っている。